4月號

# 婦人運動

第5巻第4號

大正十三年十一月廿二日第三種郵便物認可（毎月一日一回發行）昭和二年三月廿八日印刷納本 同二年四月五日發行――第五巻第四號



職業婦人社發行



# 皆様の御定評二つ

## ◇高島屋は京ごふく

染織呉服の發祥地京都に創業の
高島屋はその誇りとして京呉服の逸品
を常に用意して居ります。

## ◇洋品雜貨は特ょ優秀

多年貿易に經驗ある
高島屋は特種な連絡と撰擇智識があり
ます、從つて他に見られない優秀なもの
が揃つて居ります。

東京
京橋

**髙島屋呉服店**

◀日本エツセイ叢書▶

新居格氏著

最新刊

恩地孝四郎氏装

第五篇

# 季節の登場者

四六判紙装　定價一圓二十錢　送料八錢

□自由人の言葉

□女性篇

□生活篇

□季節の登場者篇

□映畫篇

▲現在日本に對する態度　▲高臺の朝　▲病後の散歩　▲小劇場の廊下で考へる　▲勝手な變態心理觀　▲文藝と時代感覺　▲モダンガールの心臓　▲幸運なる亡命　▲寂しき窓の映象

▲ローンサール　▲言葉の奇術師　▲末梢に咲く姿　▲モダンガールの夏　▲みどりの斜面　▲季節の隨　▲ユーモラスギロツチン　▲或る男の年末年始

▲空間感覺　▲二つの場合　▲性格破産者の感想　▲泡立つ想念　▲湖畔の幻影　▲映畫と女性　▲映畫行動　▲映畫と近代生活

骨の髓からの自由人たる著者は、現文壇思想界を通じてユニークなる存在であると共に、また普遍的興味を多量に有する人物である。流麗無比の文章と、新鮮な感覺と、多趣多樣の觀察を以て、人事自然を縦横に描き論じたのが本書の內容である。モダンガールの文字各篇に躍り、獨自の變態心理的見解を說くあたりは、眞に著者の獨壇場といつて好い。讀者若し、本書を手にせば卷を措く能はざる興味を感得するであらう近頃、これ程面白いエツセイ集はないといつても決して過褒ではあるまい。

東京市牛込區矢來町三番地　人文會出版部　振替東京六九四〇八

# 四月號婦人運動 第五卷第四號 目次

PRIVATE PAGE



# 獨學で卒業できる一ケ年の女學校
# 早稲田高等女學講義

## スグ役立つ講義

載せられてゐる學科は毎日の家庭で必要なものばかりです。澤山な挿繪と深切な講義とで、讀めばその場からスグにでも實地に活用されます。

## 五年の學科を一年で卒業

高等女學校で五ケ年かゝる學科をわづか一ケ年で卒業ができる樣に作られて有ります。この講義錄で勉强したばかりで、立派に高等女學校卒業生以上の學力があるといふ證明書を文部省から頂いた人が、今までにも澤山出て居ります。

## 時間と學費の節約

熱心な一時間の讀書は、だらしない十時間の勉强に優ります。五ケ年の永い歳月が一ケ年に短縮された理由もおわかりでせう。

それと同じく、講義錄の全科修了に要る學費は、女學校に通學する授業料三ケ月分で充分間に合ひます。

（美しい見本申込次第無代進呈）

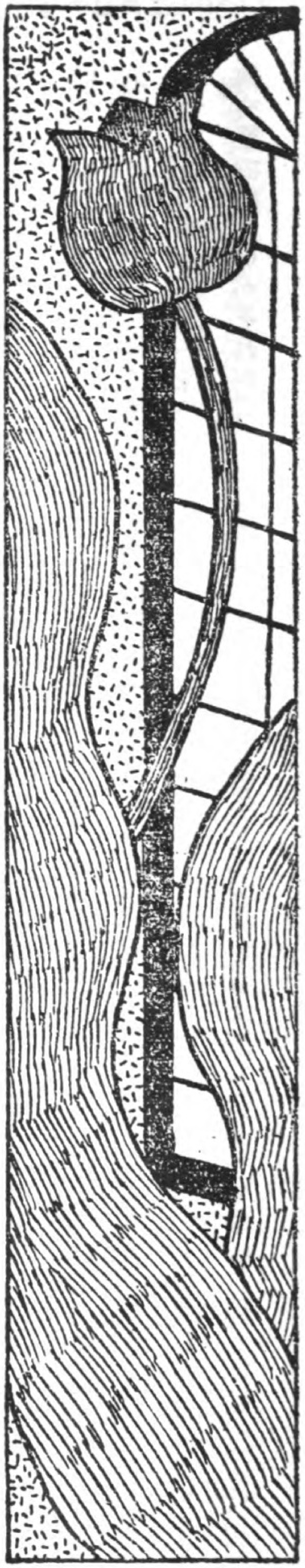
申込所　東京牛込　早稲田大學出版部

電話牛込三四五番・三四六番

# 農村の婦人と自覺

―及び其の他―

高群逸枝



一

百姓澁谷定輔氏がいつか本誌で農村婦人に對する一般自覺婦人階級の無關心について申してをられたことを記えてゐます。私もそれには心から同感しました。また此間はある農民組合の人から、農村婦人へのパンフレットに困つてゐる。第一書けないで弱つてゐる。誰も適切に書けない。これが工場婦人だと書けるがといふ話を聞きました。そして成程さうであらうと思ひました。

二

三月の本誌には小川未明氏が、都會が農村を搾取するなどゝ說くよりか幾何の小供達の血を工場が吸取つたといつた方が分ると云つてをられる。都會が農村を搾取する。かういつたことはほんとに抽象的で一寸分りにくい

縁遠い云ひ廻しでありませう。けれど工場が小供達の血を搾るといふことも同時に非常に適切であるとは云はれない。なぜかといふにより以上に農村婦人の今日の生活は惨めであるから、工場の方を寧ろよろこんでゐる向きが多い。こんなことは考へられないことのやうに思はれますが、實際田舍に生れ、農村の者として育つてきた者にはよく分ります。

農民離村の問題に頭を惱ましつゞけてゐるブルジョアジー政策家の連中は、都會がいかに嫌惡すべき地であるかいかに、浮華輕跳、恐るべき陷穽そのものであるかといふことを宣傳し、都會を嫌惡嘲笑せしめようと血まなこになつてをります。けれど農民は默々と聞くには聞きますが心では聞いてゐないのです。この飽くなき懷疑的人民達は、無意識的番狂はせを演じます。そしてお役人の意見を打破します。

## 三

いつたい農民といふものは、默々とした不思議な力をもつてゐる。それは一種の謎である。もつとも私共婦人も一種の謎ですし、私共の謎であることに關する世の人々の論理的困難、表白、斷定等を見聞きしてゐますと、一種へんな微笑が唇にうかびます。まだ早い。まだ早い。我々の神秘な財産は、まだまだ當分、少しづゝそしてなるべく愚かに、小出しにして置くべきである。

ロシヤでは『農民がロシヤを救ふ』といふ信仰が、恰もユダヤ人におけるメシヤの出現のそれのやうに思はれ云ひ傳へられてゐました。プーシキンからこちらの偉大なるロシヤ文學は凡てロシヤの百姓に關してゐる。亡びゆくインテリゲンチヤの文學であるといふ解釋をする人もあるがそれだけではない百姓的社會觀を基礎としたインテリゲンチヤの文學ではあつても。目的意識の文學說が此頃行はれてをりますが、ロシヤ文學では『百姓がロシヤを救ふ』といふ一種の目的意識？　が內在してをつた。それは『百姓をしてロシヤを救はしめよ。』といふ宣傳文學ではないがそれが却つて文學的効果、社會的効果を二つながら上げてゐる。文學は科學と同じく、確信に

根ざす建築であるとき偉大である。スミスの國富論にしても、マルクスの資本論、クロポトキンの相互扶助論、ダーキンの種の起源それらはすべて、それらそのものであつて、政策的意味をもたぬ。政治の別働隊としての直接的な役目をもたぬたゞ眞理の確信にのみ立つ。まして況んや執行委員會の命令からきたものではない。我々の文學は執行委員會からくると云つてゐる少數の人々を見受けますけれどそれは……。

處でロシヤの百姓は、そんなにも望みをもたれながら一向、無頓着でまだまだ沼の中、森の奥、人跡未到の地に默々と、おとなしく眠つてゐる。けれど偉大な新革命がやつてきて、ロシヤ農民を外から支配しようとしたとき茲に飛んだ番狂はせを演じ、お役人の意見を打破しました。少くともお役人にある種の自覺を、そして云ひわけを强ひました。この飽くなき懷疑的人民達は『時代は茲までしかきてはゐないよ』とか『俺達は時代の羅針盤である。計量器である』とかいふ無言の滑稽な、しかし力ある抗議をし、それからまた默々と眠るのですね。前號で辰巳經世氏が政治は力から、力は經濟的基礎からと云はれてゐます通り、農民には謂はゞ社會の重心根柢としての經濟的力があるわけです。卽ち社會革命が農民を根柢とし本位とし、農民に理解をもたぬ限り到底その革命は、ことに今後の革命は遂行することが出來ないのです。

百姓は封建時代の精神の持主であるといふ人がある。けれど封建時代では百姓は、ケダモノで人間以外だといはれてゐましたし、百姓政策には現代及び未來の役人が手を燒くだらうやうに、封建時代の役人も手を燒いてゐた。

何故か？　それについては多少の意見が私にもないではない。けれど茲では到底云ひ盡せないことだし、それに輕々しくは云つてしまひたくない。十分科學的に、資料を蒐集してからのことでなくては。たゞ、これだけのことは、今日常識的に、一般に云はれてゐる。といふのは、農民の窒息的生活の原因は何か？　といふ問題に關して。

## 四

農民の窒息的生活の原因は何か。これは複雜な問題であります。單に資本主義のからくりからきてゐるとだけでは、問題を徹底的に解くことは覺束ない。資本主義のからくりが一つと、いま一つは都會中心主義のからくりである。この二重のものを明らかに見究め、そこから這入つて解いて行くのでなくては駄目です。けれどこんなことを云ふ人がある。都會中心的惡弊もまた畢竟するに資本主義的經濟組織に源をもつと。

が私は云ひたい。否云ふ前に次の民謠を御らんに供したい。

都者ちゆて御自慢なさる
見眞似手眞似の
御きりよ好し

これは明らかに都會對田舍の機會不均等を憤つたものである。たとへば今日ロシヤでは藝術政策ことに劇場政策に重きをおいてゐるとかきく。けれどそれは都會でのことで、その都會がどんなに美しく飾られ、高給をとる女優が花やかな舞臺で踊らうとも、ロシヤの遠い田舍にとつて、それがどうといふのだらうか。地方百姓の立場から云ふならば、ねぢとる事だけは平等にねぢとる。けれど與へることは不平等だといふほかはない。社會主義者の多くのユウトピヤの物語を見て、いつもそして第一に不滿に思ふことそれは、都會中心のものであるといふにあります。都會はこんなに美しくなる。都會の空には雨傘が張られるから、雨天の日も傘をさす必要がないなど。けれど田舍の空はどうか？　田舍の空に張りつくせぬ雨傘なら、ひとり都會の空に張るの必要があるだらうか？　しかも都會の空に張る特殊的雨傘の代金を、田舍からも平等に支拂はねばならぬとは。

都會中心主義が否定されぬ限り、多かれ少かれ、田舍の者は不平等な負擔と、不平等な機會のもとに甘んぜねばならぬさきにあげた民謠は、いはゆる封建時代に出來たものらしいのですが、その頃から、否都會が田舍の頭

の上に出來、そこから田舍が捧られることになつたその日から、地方百姓の胸の奥には、潛在意識的に、都會中心主義に對する反感が育つてきてゐたのであります。

實際田舍の者を、田舍に生れたといふ單なるそれだけの理由が、宿命的にいはゆる御きりよ好しでなくし、またいはゆる田舍者にするのであります。見眞似も手眞似もない。文化的機關はおろか雰圍氣だにそこにはない。生れながらの無智蒙昧、そして醜婦であらねばならぬ。たまたま一寸した女がゐると「田舍にはまれな」といはれるほどにも、田舍は醜婦の場所であるそれといふのが機會不均等であるからだ。

## 五

農村婦人の自覺を促すには、農村婦人の急所をつかねばならぬ。私の故郷は熊本ですが、熊本の天草といふ、そこは有名な天草女を出す本場で、ロシヤ滿州南はジャバといふやうに勇敢な女達が、時としては單身笹舟に乘つて目的の地をおかしに行く。

これは日本の恥辱であり、天草の名折れであるといふ說が時々出まして、彼女達にこんこんと說敎をしてきかせます。けれどそれが何でせう。村の娘達には笹舟に乘つて出て行く、仲間の者がやがて花やかに着飾り、腕には時計の輪をはめて歸つてくる日の幻想が泛びます。貞操とか恥辱とかそんなものは、事實の前には全然無價値であるといふことを彼女達は多年の經驗で知つてゐるのです。

事實お金を澤山もつて歸つてくれば親達、附近の者皆喜び祝します。また貞操の點ではどうであらうと、きりようが好く、美しく花やかである場合、すべての男を魅惑し、友達を羨望せしめ、おまけに良緣をもとめることができる。

婦人はそれが農村の婦人であらうとも、都會の婦人であらうとも、婦人といふ名において一般的な約束をもちそれを基底の生活に根づけられてゐる。天草女は歸つてこない者が多い。旅で多くは病毒におかされたり死んだ

り酷い酷い云ふに云はれぬ憂目を見たりしてゐますが、それあるが故に天草女の希望にひゞが入る事にはならぬ中には金を持ち、美しくなつて歸つてくる少數の者があるからでありなほまた、一寸のあいだでも、然り一寸の間でも、美しい着物を着て自分の若さを甘やかし享樂する瞬間があるといふ單なる儚い短い理由のためだけにでも彼女達は笹舟に乘つてしまふのです。

もし笹舟に乘らぬならば、天草女はそれこそ色の黑い、とても醜婦としての定評のある境涯に窒息してゐなければならぬ。あちらで普通天草女といはれてゐるそれは、色黑の醜婦といふ意味に使はれてゐるほどです。天草は島ですから、潮風で自然に黑くなつてゐるのです。

私は思ふのです。これと同じことが村の娘にも云へると。工場をあこがれて行く村の娘自身の望はいふまでもなく美しくなるといふことに外なりません。私は過去貧しくて、紡績の仕上科で働らいてゐたことがありますが田舍から出た娘達が、とてもとても白粉を塗り、おしやれをする事といつたら恐ろしい程でした。まるで抑へつけられてゐた多年の渇ける慾望を一時に滿たすその勢ひ。かう書くと何だか講談口調ですけれど、ほんとうにそれは旣う恐ろしい程でした。

此れで見ても、田舍の娘の窒息狀態には、美に關する機會及び生活の不平等が確かな原因であると云はれませう。

娘の心理に立入つてゞなくては、どんな宣傳も說法も適切であるわけには行かぬ私はですから思ひます。

小川未明氏のお言葉の通り『田舍は都會から搾取される』と單に云つても利目はなからうが、次のやうに云つたならどうだらう。

『都の女は美しい。けれど田舍の女は醜い。それは世の中の組織が平等に出來てをらぬからだ。』と。

これは田舍の娘をつきさす最も適切な眞理であらねばならぬ。けれどかうなると、單に資本主義否定だけでは

辻褄が合はなくなります。資本主義もたしかに一つの原因である。それら尚又、都會中心の中央集權組織が一つであるとなつてくる。こうして農民としての戰ひの手段にも、一つには小作爭議、二つには農村の協同組合運動この二つが併せて必要であらう。就中第二の運動、農民自治の運動が徹底して行くことは卽ち中央集權否定を未來に約束するものである。此ことについてはまた後日述べたいと思ひます。——(本誌で盡力されてゐる消費組合の精神もまたある意味において農村問題と共同の立場にあると思ひます。)

けれど一般に、資本主義は否定するが、中央集權卽ち都會中心主義は否定したくないといふ風がある。こゝに混亂と、不徹底と、不行屆きがある。そして農民に對する無理解と意識的な疎外がある。

けれどどうせ都會主義は宿命的に否定される。それが社會の必然的進化過程である。なぜかといふに、今日にあつても文化の地方化、工業の地方化、娛樂の地方化、電氣の地方化、その他何々の地方化といふことが一般の常識として云はれてゐる。それはもう時間と組織の問題でしかない。處でそれら凡てのものが徹底的に地方化したならば、地方に行き渡つたならば、都會存在の意義があるか。否、都會は存在しうるかそれらの凡ての機關が地方に疎くして或は無くして、都會にのみあるが故にこそ、今日都會は存在してゐる。いまに凡ての文化機關其他のものが地方に分在するやうになれば、都會は或地方と他地方との物々交換の單なる取引場、赤禿の空地になつてしまはう。もはや其處には都會としての特殊的な意味はない。

## 七

田舍の娘さん達の潜在意識には、單に美しくなるといふことだけが求められてゐるのではない。都の娘との不平等、そして階級的劣敗といふことが殘念なのである。

きりよで一番姿で二番
戀の結ひよで

二十五番

といつて憤つてもゐる。單なる機會によつて差別を生じてゐること、この不平等への憤り。が田舍の娘達を個人的にでも都會へかけらしめる。けれど多くの一般の田舍の娘達は、涙をのんで、それも意識的には殆んど突つ張る力もないほどにまで諦めて、土深い田舍で生涯朽ち果てる。田舍の娘達には平等が欲しい。それが與へられてほしい。特權的都會がなく、そこに住む都會人がなく、すべての地方が平等に、機會均等、そして自治的に協立し合ふ社會これ農民の望む唯一で無二の社會である。

つい長くなつてしまつたが、まだ十分の一ほども盡してゐない。私は田舍の娘として、そして子守、女工、教員事務員、乞食、あらゆる苦がい經驗をなめさせられてきた女として、そしておまけに無學な學歷のない女として、胸いつぱいあらゆる苦がさ、矛盾、不合理、虐げを感覺し、それを複雜に胸に溜めてゐる。かうした私が泌々と思ふことは『現實』もよい。『實際的』であることも尙よい。だが『現實』にいやといふほど壓伏されてきてゐる私共は、それと共に心を抽象的原理、指導的原理の探究に放ち、それを私共の心で批判したい。まづそれへ！無產階級の女達よ。無學では駄目。まづ書物を、知識をあせり求め、渴き喘いで讀め！求知の心は新興の心である。それは新興民に伴ふ必然的欲求である。そしてそれは新生への光明である同じ書物を讀むにしても、上の階級の者は比較的に『うのみ』にしてしまふ。けれど私共虐げられた者故にそこに自己をもつてゐるものは、その書物を批判することができる。こゝに私共にのみ與へられた强味がある。私共はいかなる場合にも書物に讀まれてはならぬ。どんな難解なものでも批判しようといふ態度と誇をもつて讀きねばならぬ。

讀まうと思つても金と時間がない。けれど讀まうといふ熾烈な欲求があるからには、新鮮な求知と新興の心はそんなに燃えてゐる。その心を失ふな若い無產階級の女達に私はかく心から祈る。そうして私共は、新鮮な、若々しい態度と生活とを以て、共に各々の最も現實的な適切な戰線へ進んで行きませう。私はいま酷い病氣ですが、私の祈る心は燃えてゐます。

# 第五十二議會を顧みて

服部龜三郎



## 政本聯盟から不信任案提出まで

元來政友會の內部には、舊思想系を中心とする幹部派と、非幹部派の新思想系の一派とがあつて、これは政黨として大きな惱みであるのであるが、然し、この新舊兩思想を貫くものは政權利權を辿りて、離れ得ない政友會獨特の傳統的精神である。

一方本黨は、その表看板に『穩健着實』を懸げてゐる通り內部の思想的傾向が老若共に舊思想を抱いてゐることを證明する。元氣なく活氣にとぼしいのは、敢て議席を九十八名しか持つてゐないといふ許りでなく、この舊思想系が大勢を占めてゐるがためと謂はねばならぬ。然し政權に接近したい懸念は政友會に劣るものでなく、殊に本黨として最も恐れるのは、解散後の勢力が目に見えて劣勢に陷るべきの一點である。

野黨として立つてゐる以上第五二議會に臨むに際して何とか面目問題も考へねばならぬといふ惱みから、政友會から持ち込んだ朴烈問題で手を握らうとしたのであるが、本黨は政策本位だとの云分があるに加へ、朴烈問題は『政策を超越した問題』だとまで床次總裁は言明してしまつたので、政友會と手を握るには何か政策がなくてはならぬし、政友會としても解散の時を考へれば、何か國民生活と關係のある政策を發見しなくてはならぬ、としてゐた時、例の松島事件で若槻首相が與黨の長老箕浦老人より僞證罪で告訴された事實が發生したものであるから、これ幸として、政本兩黨は接近したものである。然し、何分にも感情で喧嘩をして來た仲だけに白

堂公然と手を握る譯にゆかぬので、互ひに向き合つた儘幕にしてゐた。

この兩黨の弱點を觀察したのが後藤新平氏で、氏としては旨くゆけば兩黨の頭目に座つてもよく、もしそれが無理ならば一つ兩黨の提携を斡旋して『政界に於ける吾輩の力はこんなものだ、吾輩が兩黨の上置に座るも無理はござりますまいが』といふ刺戟を、遠く興津の西園寺公まで屆けてみたい見榮も手傳つて、自ら動き出してデッちあげたのが所謂三問題の提携——一に朴烈、二に不景氣挽回、三に綱紀肅正といふ政策非政策を混合した膏藥である、どうせ急拵への賣藥であるから、效目はとにかくとして、漸定的に兩黨を結びつける位の效能はあつたと見えて、曲りなりにも、たゞ内閣倒壞を目的としただけの提携は成立した。

然し乍ら内閣倒壞後は、お互ひに漫性の政權病患者であるから、目的が一致しやう筈がない。即ち互ひに自分の方で政權を握りたいといふ一念から『合せものは離れもの』で、すぐに脊中合せとなるのは間違いのないことである。從つて政本兩黨の倒閣聯盟なるものは終局の目的に錯誤がある以上、決して强固なものではなかつた。



民意の反映なき既成政黨の政權病はかくて次第に進行して遂ひに第五十二議會の再開の劈頭即ち一月二十日となつて、内閣不信任案が政本兩黨から提出されたのであつた。

## 解散回避の一芝居

本黨の床次總裁は、最初から「朴烈問題は非政策問題であるから議會の劈頭で内閣の信任を問はねばならぬ」といふ口吻で進んで來てゐる手前もあるので、これを握つてゐる政友會としては、どこまでも本黨を引ずつて行く底意から成るべく本黨の機嫌を損ぜないやうに、緩急を計つて提携の實を進めて來た點は如何にも既成政黨のやり口を證明したものといはねばならぬ。

然るに一方本黨は、口に内閣の不信任を主張しながら、その内實は解散を極度に恐れてゐるので、その理想とする所は解散を避けて内閣を倒壞したい、この矛盾極まる意向を持つてゐた點は、政友會の方でも同樣であるが、大勢は解散も亦止むをえない、といふ一種の政治的アキラメがその間にあつただけ、政友會の方が筋道が通つてゐた。

然し裏面では解散を極度に恐れながら、本黨が一月二十日には、進んで不信任案に贊成して來た經過には、看過しがたい政治的陰謀が介在した。即ち、貴族院で絶對多數を占めてゐる研究會の策動である。

一月十七日に研究會の幹部青木信光、水野直の兩子が若槻首相を

私邸に訪問して、「野黨は不信任案を出すやうだが、政府では諒闇中の議會をどうして切拔ける方針であるか」と突込んだものだ。この會見で大體首相の肚は見すかされて仕舞ひ、かくて陰謀政治は田中床次兩總裁を挾んで行はれたのである。「政府に解散の意思はない」といふ事がシツカリと掴まへることが出來たから、床次總裁の如きは、一月二十日の朝幹部會で「政友會と提携して飽くまで不信任案を提出する」と言明し、茲に政本の兩黨は一致して『現内閣は大逆犯人に對し濫りに減刑を奏請し、司法部の失態は司法權を汚し、一方經濟政策は深刻なる不景氣を招來し、若槻首相は僞證の告訴を受け、信望地に墮ちたり、衆議院は現内閣を以て昭和の大政を補弼するの重任に堪えざるものと認む』といふ彈劾案を提出した。

今まさにこの不信任案が議題とならうとした直前に詔勅は下つて三日間の停會となり『成る程、解散となる前に一應衆議院の反省を求めるために停會を命ずるのも順序であろう』と考へられた。卽ち若槻首相の發議で直ちに三黨首の會合は院内の大臣室で開かれた。これが數日前からの陰謀政治の幕切れであつて、豫定の筋書を公明正大に行つたもので、如何にも亡びゆく既成政黨の頭目が、延命術を試みた手練手管の縮圖である。

この會見のときの所謂三黨首の申合せなるものを見よ。

『新帝新政の初めにあたりお互ひに政治の公明を望むを以て今後は各自黨員を嚴に戒飭し、言論を愼み、益々國民の議會に對する信頼を厚うすることに努むべし』とある。

言論政治で進むべきものが議院政治であるに拘らず、これを自ら愼むとは如何にも滑稽であるが、その内實は三黨互ひに脛の傷となつてゐる朴烈問題、松島遊廓事件、機密費費消事件といふが如き傷手には觸れまいとする手前勝手の申合せである。

國民は既成政黨の司法部でなければならぬ、その司法權は普選の實施の時初めて實用せられねばならぬ、既に國民から信頼の去つた既成政黨が、尙ほ努力を重ねることは、足腰立たぬ老人にモルヒネを注射するのと同様である。

## いはゆる「深甚の考慮」

形式的に行はれた三黨首の會見の結果は、名を昭和新政に藉りて事實は互ひに解散を回避し、普選の實施を前にして最後のドタン場で亂舞したる醜い演出を見せつけられたのであるが、これがために既成政黨はやつと命乞ひの甲斐があつたとして、秘かに胸を撫で下ろしたる楽屋裏の不愉快は、一段と政治を暗鬱にしてしまつた。

三黨首會見で「不信任案提出となつたに就いては、深甚の考慮をなし

て買ひたい』と田中政友總裁が云つたに對して若槻首相は深甚の考慮を致す旨を答へたので、政友會はこれを議會後若槻首相の辭職を表明したものと解して、即座に、不信任案を撤回したこの經過は、政黨政治でありながら、所謂寢頭政治の昔に復歸したものであつて、單に三黨首の直接行動であれだけ大騷ぎを演じたる不信任案を、何の苦もなく撤回して涼しい顏をしてゐることは、常識ある國民では解らぬ圖である。

『昭和の大政を補弼する重任に堪へず』となした內閣の政策を實施すべき豫算ばを、些の修正もなく通過させて、たゞ單に政權の來るのを待つてゐるなど、驚くべき矛盾であつて、國民生活に關係のある豫算と政權とを別々に考へ得るならば、政權は即ち利權を得るためのものと斷じても過言ではあるまい。

## 政權は何處へ

政權と利權を分つべからざるものとしてゐる既成政黨であるから、議會後の政權はどこに行くか、を考へるのは當然なことであつて、若槻首相に辭意ありと見た憲政會では、反政友會で立つてゐる關係上、いきほひ本黨の方へ諒解を求むべく策動するのは何人も信じてゐた所であるうが、果してこの憲政會と本黨との間にまた〱陰謀政治が試みられた。

床次總裁は不信任案撤回と共に、『政友會との提携は三問題に限られてゐるから、既に右の不信任案を撤回した以上は政友會と關係はない』と言明して、明かに感情問題で分裂した政友會に對して反旗を揭げるに至つた。このために憲本兩黨の關係は刺戟されて、本黨は議會後政權は床次總裁に降るのが順序であると自惚れてゐる。時、憲政會の安達遞相は、『憲本は互ひに根本政策を一つにしてゐるから、今後は成べく床次總裁に政權が來るやうに聯盟を作つて進んだらどうか』と提議してゐる關係上、濱口氏は贊成の意を表したばかりでなく憲本の政策聯盟が成立――その覺書には鞏固なる聯盟と加へて互ひに一致した。むしろ政權獲得組合と云つた方が早いであらう。

而も右の覺書を見ると、『兩黨は聯合調査會を設けて政策を確立する』とある。調査會を設けなくては政策の確立が出來ぬ兩黨にして最初から、『鞏固なる政策聯盟』とは人を喰つた話である。政策が一致して聯盟を作るべき理屈であるが、これからボツ〱政策を考へ出すと云ふに至つては、政策本位で立つべき政黨の資格は何處にあるのか解らぬでないか。

單に消極政策だけに一致したといふのであるならば、昭和二年度の膨大なるあの豫算はこれを裏切り、所謂選擧豫算と云はれてゐる程であるから首尾は一貫せぬ。これまた要するに政權のために一致し、解散を回避せんとする、見えスイた組合組織の運動である。

この兩黨の接近を反對黨の政友會が知らずにゐたと云ふも滑稽な話であるが、憲政會が疲れ切つた現内閣を更らに引摺つてゆかうとして不信任案まで突きつけられた本黨と結ぶに至つた醜いアガキは、前議會で解散の機會を失ひ、今度又た不信任案で解散の機會を失つた憲政會の惱みである。普選の制度を作つてこれを實行しない責任はあくまで憲政會が負はねばならぬ結果となり、國民の要望となつて成立した普選を、私有物としてゐる點は、不合理極まることである。

## 震手案の正體

三黨首の申合せなるものは、飽くまで既成政黨の守り札となり、利權案とせられた震災手形救濟案に對しても、政友會は實業同志會の武藤山治氏のやうな正面からの反對は出來ずに終つたが、本案の要領は震災のために損失したる手形を所持してゐる銀行を政府が救濟せんとするものであつて、貴族院に行つてから問題は複雜して來た。即ち臺灣銀行が、三億圓以上の不當貸付を鈴木商店にしてゐる關係上、震手案が通過すれば、自然鈴木商店を救濟するやうなものである、といふにある。

臺灣銀行を助けやうとする政府の精神は、鈴木商店を助けんとする精神であるとし、且つ鈴木商店と濱口内相との關係も裏面では問題となつて、『政府は國民の金子で鈴木商店を救濟するのか』『正直に震災手形を自分で整理したる銀行は馬鹿を見たではないか、横着を極め込んだ銀行は救濟される、とは木葉が沈んで石が浮く世の中になつたのか』と、反對論は政友會や實業同志會から、あげて貴族院の震手案へ通過を邪魔せんとしたが、案が通過して仕舞つての遠吠は、何の役にも立たぬ。

その後片岡藏相の失言から、渡邊銀行の休業となり、これが動機となつて東京市内の銀行中震災手形を持つて苦んでゐる銀行は、大恐慌を演じ、遂ひに日本銀行から一億圓以上の非常貸出しを試みて財界の混亂を防ぐに努めたが、一方これがために却つて貴族院の研究會では『財界の救濟策として本

案を通過させるのは必要である』と說き、研究會が妥協條件を以て二十三日の本會議で通過させるまでには可なり政府との折衝が秘かに行はれてゐる。この職業的既成の會派が、たゞの妥協案で通過させたかどうか頗る疑問だと云はれてゐる。

池に落ちても金魚はクワへて出て來る研究會であるから、流石の既成政黨も、研究會萬年職業的策動には閉口してゐる圖は、普選後どう塗りかへられるべきか、公娼制度廢止と貴族院改革とは興味のある問題であろう。

## 既成政黨を排擊せよ

第五十二議會は既成政黨の政權泥醉病を十分に見せつけ、豫算も法律も共に國民生活に關係のある大問題はソツちのけにして、國民に關係のない妥協に妥協を繰返して朝野兩黨共に解散を回避して、一年の命つなぎを申合せ、昭和新政の初めに實施するのにまことに好機會たる普選を避けて、我が憲政史上に不合理、不徹底な政治の一頁を殘したことは既成政黨全體が持たねばならぬ責任である。

**議會ゴシップ**

# 恒例の亂鬪始まる

田崎信藏代議士(革新倶樂部)陰謀政治彈劾演說會に一席掛じ立てゝから、恐ろしく强氣になり『矢でも暴力でも持つてこい』と屢々喧嘩を買つて出る。

雲行極まつて陰氣滿々の議會、何かことあれかしと願つてゐる矢先き、田崎代議士二十七日の議會に、議事進行に就き發言權を求め日頃の鬱憤晴しにか眠むけ醒しにか、與黨野黨をこき下す、それを聞いた代議連承知せず『後見つき猾士』とか『清瀨かき田崎讀む』など冷かすに田崎ボツボ頭から湯氣をたてゝ、舌戰益々猛烈を加へる爲、議長を呼ぶ聲かまびすしく、田崎降壇するや、政友派の某代議士に喧嘩惣兵衛も加はつて、あはや亂鬪始まらんとするに、傍聽人は澤正の芝居でも見る氣で大喜び、併し守衛が直ぐ樣馳せつけて來たので惜しい所で幕切れの心地、これでヤツト議會氣分がするとは、さてさて……(議會所見)

# 婦選獲得同盟の對政黨政策をよむ

奥むめお

『婦選』三月號に書かれた市川房枝氏の一文に就いて、僅かに剰されたこの一頁で婦選運動に對する私の希望をのべ、併せて私たちの立場を明かにしておきたい。

×

『已に婦人の政治的團體として活動してゐるもの二三あるにも拘らず、何れも女權の追求に急のあまり兎角婦人大衆の當面の問題には冷淡である憾みが少くなく――殊にそれ等の婦人團體が、今日では年中行事的にさへなつた對議會運動に其精力の大半をすりへらしつゝ頼むべからざる已成政黨の手に縋らうとしてゐる――』といふ婦人政治運動促進會の批難に對して次のやうに婦選獲得同盟の態度を闡明されてゐるのである。

――議會運動に對しては、そのために精力の大半をすりへらす事の無意義なるは我等が常に唱へてゐる所であるが、婦選の獲得が法律の改正にある以上、婦選運動として當然なすべき一方面の運動である事も亦否むことが出來ない。

私等の對議會運動といふのは代議士をして婦選案を議會に提出せしめ、これが通過に努力せしめる運動である――云々。

×

私は婦人側の有力な監視(とそして後援)が無産政黨の上に常になければならないことを主張すると同時に、現在の既成政黨の上にも一派の有力な婦人團體があつて、嚴重な監視(と鞭撻)を常に加へてゐるやうだつたら、婦選運動もいくらか心强かろうといつも思つてゐる者です。

それにしても『代議士をして婦選案を議會に提出せしめ、これが通過に努力せしめる運動』と見るべく、今の婦選諸團體の態度の何と物ほしさうな、惡いのになると賣名的な、申しわけに續けてゐるに過ぎないと云つた風の腰の弱さであるでせう。

×

三黨首の妥協、憲本の聯合、震手案等のことはいはずもがな、今期議會で婦人に關係のある諸法案がどんな運命を辿つてホンロウされて來ましたか、それを考へてみるだけでも、婦選運動が今迄通りな請願や懇願の形式で出てゐる限り見込みがないと云ふべきであらう。

要は婦人大衆の政治的覺醒と、それに依る根强い要求の示威でなくてはならないと私は思ひます。もし今の婦選諸團體が對議會運動に費やす金子と精力の半分を婦人啓蒙運動のために、有効に生かしてくれたらとはいつも私の思ふことです。

×

大正十年?頃、政友會の幹部が私たちを××亭に招待した時、『さうして、たつた一つの治警案を提げて攻めて來たんでは、女の要求だから早々に應じたと云はれても私達として困りものであらうぢやないですか。七つでも八つでもいろ〳〵取交せて提出されてゐれば、中の一つ位は通して置かうといふ事になつて、やがてはあなた方の主目的たる治警案ものになる時が來るわけであるでせう』と、彼等は私達に忠言を入れてくれました。實に支配階級根性を露骨にした言葉でないか。そしてその席上で『では、どんな案を外に提出したらいゝだらうか』に就いてまじめに相談を進め初めた婦人さへあつたので、私は遂々云つたのです。

『私は、かういふ極めて當然の要求を通す事にさへ、さうして恩惠的な態度に出やうとするのが非常に不快です。私たちはさういふガンメイな人たちを政治圏外にほうり出すためにこそ私たちの運動を續けなければならないのです』と。これは今も昔も變らぬ支配階級の態度だと云つていゝでせう。

×

それから『從つて此運動には當然代議士乃至は政黨と直接間接に交渉をもつ事になるのであるが……少く共我等は已成政黨の何れにも縋らうとしてゐない。否、已成政黨のみならず最近簇出した無産政黨に對しても、特に無産政黨なる(五〇頁へ續く)

# 支那はどう動く？……

## 新支那の反逆

清澤洌

### 一

私は平和論者である。絕對に戰爭と革命……暴力を否定する。平和論者であるその平和論者の私にも、解き難い疑問が頭一杯を占領することがある。

それは支那に關してゞある。

今の支那ほど傍若無人に振舞つてゐる國はない。どんな强國でも遠慮がある。米國及び米國人は、隨分無遠慮で通つてゐる國柄だけれど、その米國でも決して、さう國際禮儀や國際道德を無視してゐはしない。ことに米國が强國になるや、歐洲から『高利貸し』だの『シャイロック』だのと攻擊されて來てから、隨分遠慮勝ちになつて來た。米國が既にさうだから英國や佛國は無論さうで、日本などに至ると、何を云ふにもするにも、まづ遠慮が先きに立つといつて、いいほどな遠慮の仕方である。

ところが支那だけは全く別だ。支那は今得意の絕頂にあり無遠慮では天下御免の境地にある。少し以前のことだが、上海で外人の家に泥棒が這入つたことがある。日本と違つてピストルは自由に使へるから、その外人が泥棒をピストルで脅したのは別に奇もないが、この場の事情から、これを發射し

て、泥棒を殺してしまつた。この事を傳へ聞いた支那人は例の通り大騷ぎして、それボーイコットだ、ストライキだと大袈裟な排外運動をしたものである。

こんな事は幾らでもある。日本の汽船に來た支那人が、日本人乘組員と喧嘩して負傷し、それが排日運動の原因になつたり、紡績會社で罷業して、それから相互の衝突になつたのを、罪は日本人ばかりにあるやうに騷ぎ出したりした例は、數へ切れるものではない。

以上は單に個人の場合だ。國家的にいへば支那人の亂暴、無遠慮は迚もお話しにならない。たとへば漢口の英人租界を暴力で占領し、これをいつかな返還しようとしない。またワシントン會議の原則を破つて、勝手に關税附加税を課し、これに抗議をすると『外國公使は北京政府のお客様だから、私共廣東政府には御用はない筈、交渉がしたいなら廣東政府を承認してからにして下さい』と劍もホロヽの挨拶をして突返すといふやり方である。

もしこれが他の强國であつたなら、かうして條約を踏み躙るやうなことがあらば、まさに戰爭の理由になるものだ。

## 二

一體、今までの原則では、外交上最も强く出られるのは、その國が强國である場合に限るのである。今でもそれは大體にさう信じられてゐる。ところが支那は弱くなればなるほど對外的には强くなつて來るのである。

といふ意味は、世界の内で支那ほど國内が亂れてゐる國はない。北京政府などといふけれども、あの威令は北京城内だけである。近頃廣東政府が擡頭して來たのは事實だが、そしてこの擡頭は、如何にも相當に根據のあるものゝやうだが、それだとて廣東と漢口一帶を勢力範圍にして居るだけで、支那全體にしたら、五分の一にも當りはしない。かうして年柄年中、相鬪ひ相排斥しあつて居るにかゝはらず、一度對外問題になると、馬鹿に强くなるのである。

もし軍隊が、その國の國際的立場を强くさせるものならば支那が國際的に浮びあがる機會などは、永遠に來る氣遣ひはない。支那には百五十萬人ぐらゐの兵隊はあらうが……誰だつて正確に數へたものはない。それくらゐ給金を拂ふからといふのだが、どれだけ中間に消えてしまふことであらうぞ！

……外國と戰爭をなし得るやうなものは、殆んどない。それ等は悉く彼等の內輪喧嘩に、備へるものにすぎないのである。

かうした狀態であるに拘はらず、支那は何故、國際的に强いか。わが儘勝手な振舞ひをしながら、しかも步一步、列强を壓して行くのは何故であらうか。……私が始めに『解き難い疑問が、頭一杯を占領する』といつたのは、この邊の事である。

## 三

廣東政府及び北京政府が、あれ程なわが儘を振舞つてゐるのは、彼等の頭には列强は是程の事では、決して兵を動かしつこはないと見てゐるからである。これは廣東政府を代表して東京に來た某支那人君も、私共と逢つた時に、さうした口吻を洩らしてゐた。

彼等が、いぢめてゐる英國を見ても分る。日本人は英國といふと、强硬外交驅引外交をやる國のやうに思つてゐるが、これは英國の近來の變遷を知らないものである。英本國においては勞働黨の擡頭と共に、國論が、昔とは全く一變してゐる。英帝國が、この間の帝國會議を紀元として、幾つもに別れて、獨立國を並べたと同じ意味の國になつたのも、英國が如何に自由主義になり、軟柔外交になつたかを知るに充分である。

考へても見るがいゝ。『英國といふと、日の沒せざる國』とか『世界第一の强國』とかいつて、過去三四世紀間押しも押されもせぬ老店であつた。その老店がワシントン會議では自から進んで米國と同じ海軍力で結構だと云ひ出す。今度は又その領土に（印度だけはまだだが）完全な自治を與へて、英本國と同じ權利、同じ位置を占めさせるといふのだから、變れば變る世の中である。

かうした國であるから、支那が如何に無理を云つても、さう過激な手段や方法に出るものではない。こゝを狙つたのが支那である。彼等は他人の同情と寬容とを利用して、まるで無茶な行動をしてゐるのである。

こゝに高僧があるとする。突然ある亂暴者がその高僧の頰を毆り飛ばす。その高僧は『この不埒者め』と睨めると、亂暴者はそこに居直つて『なんだ君は僧侶じやないか、かりにも高僧ともあらうものが、暴に酬ふるに暴を以てするとは何

事だ』と逆捩を食はせるとする。僧侶は對手の亂暴に齒がみしながらも、まづ默つてしまふ――これが支那の烈强に對する態度である。

## 四

文明國の間には、もう國際道德といふものが出來てしまつた。無論さう理想通りにはゆかないにしても、併し正義人道の名を用ひずしては、兵隊一人を養ふことも出來ない狀態になつて來た。

この道德は文明國の間では、實に結構なことだ。併し四等國、五等國――その國民が、まだ暗愚な國では、彼等自身はその道德に束縛されないで、逆に對手の道德を利用して、亂暴しようといふのである。即ち亂暴者が、高僧の頰を打つて逆捩を食はすの類である。われ等はこれを看過すべきであらうか、更にこの事實が、將來如何なる影響を國際關係に及ぼすであらうか。私の疑問といふのはこれだ。

それをプロレタリア國家の反逆といふもいゝ。長い間權力を揮つて來たブルジョア國家の罪滅ぼしといつてもいゝ。併し社會の間に、階級鬪爭による新道德が生れて來たやうに、國際間にも確かに新しい道德が頭をもたげて來たことは確實だ。それは決して望ましい傾向ではないと思ふ。併しわれ等は事實に眼を蔽ふてはならない。

われ等は支那の反抗運動も、かうした新らしいムーヴメントの先驅として見る時に、意味が深いと思ふ。

# 中國婦人雜感

竹中繁子

長い間愛撫してゐた小さい纏足の布を、忽ちの間にかなぐり解いたり、生命ともして愛くしみ蓄へ來つたみどりの黑髮

を、いかにも思ひ切りよく斷ち切つたところに現はされた、中國婦人の解放運動の心理には、私は一しほ深い興味をひかれるものなのです。しかしさうした心持に對する的確な全的な解釋に至つては、ただ旅人として一と通り歩いて見たゞけの私に、無論下し得る筈はないのですが、そのやり方の思ひ切りのよかつたゞけ、それだけ中國の婦人が長夜の惡夢に醉はされてゐた揚句覺めての後の悶えの甚だしい樣が見えるやうで、いたく同情の念さへ湧くように覺えます。

度々日本に居て聞いた言葉は、中國には恐ろしく突飛な婦人が出來てゐる、斷髮をして政治を論じたり示威運動の先に立つたり、日本などよりはズツと急進的な思想をもつた婦人が近頃出來たさうだとか、または、中には交際場裡にもズン〳〵立ち入つて西洋人とも交れば、ダンスをやつたりなどしてなかなかハイカラな婦人がゐる、といふ事でした。そしてそれを如何にも珍しい事のやうに言ひまた聽くのでしだ。併しそれは過去の中國婦人の生活の歴史を考へさうして遙かに世界の舞臺に飛び上る爲めに（私は中國婦人の場合特に飛び上ると言ひ度いと思ふのです）急ごしらへをしなければならなくなつた道筋を考へるときに、凡ゆる平衡と中庸を失つたやうな現象のあらはれる事は、決して不思議でもなければ疑はしい事とも思はれません。しかし政府は一躍して國民の政府となつた。その掲げた看板はいかにもよかつたのですけれども、國民といふ中に婦人といふものをまだまるで見過して居たのでした。そこで婦人は他人の手をまたずに自分一人で立つて、歩んで、行くべき道を自分で拓かなければならない場合である事に氣づきました。氣づいて見れば世界の中で中國の婦人が婦人として、一番割の惡い場所に立つて居ながらなほ起ち後れて居たのでした。焦るのは如何にも當然の事たと思ひます。

×

試みに私は支那の婦人が國民として、數へられる爲めに法律上どれ程の權利をもつて居るかを、言ひ換へればどれ程無視されてゐるかを改めてこゝに擧げて見度いと思ひます。若し一家の父親が亡くなつて、その家の財産を整理する一方法として家を賣らうとする場合、男の子がなければ他から男の子を入籍させて名義人とするほかには、妻にも娘にも權利がないのです。買ふ場合にも同じ事です。それから相續權については、家に男の子のない時には、たとひ女の子があつても

それが相續する事は許されずに、他から男の子を入籍させるのです。若し貰ふべき男の子が親戚の中に一人もないとすれば、他人の子を貰ふのですが誰しも知らない他人に可愛い子をやるのは好まないから、勢ひ身分の悪い者から貰ふといふ事になるので、そこに種々な禍ひの種が蒔かれるのです。じかも法律上其の道を撰ばなければならないのです。財産權も亦同様であつて、決して妻は一文なりとも自由にする事が出來ないで、他人の子を貰つてゞも男の子に讓る事になつてゐますそれと、夫の亡くなつた場合、妻が夫に代つて商業を營む事が出來ないのですから、據ろなく他人の男の子でも入籍させて名義人に立てるほかないのです。もう一つは女の名では銀行の金すら　出す事が出來ない。つまり商法上女は金の出入を自由にする事が出來ない事になつて居るのです。緋總の籠の中に、歌ふ自由だけを許されて愛されてゐた鳥は、愛護の美名の下に足の動きを全く奪はれてしまつてゐたのでした。婦人參政權獲得運動の促進されるのは餘りにも當然な事です。

×

中華女子參政同盟といふのが、民國元年にナンキンにおいて、王昌國、唐群英、張漢英、朱劍霞等の女士によつて組織されたのでしたが、その翌年、袁世凱の帝制によつて、この同盟が一時解散させられたのでしたが、併し壓迫束縛の縄をのがれて飽くまでも自由を得たいといふ慾望を貫かうとする女士等の初一念は、解散の運命に決してひるまなかつたのみか、寧ろ精神的結束は前にも増して固くなつたのでした。その後萬國女子參政協會にも加入して一層强味を加へるに至つたのです、かうして參政權を得ようとする女士等の目的は强ちに政治に直接參與する事を强調するのではなく、要するに國家の制度を改善し度い望みをもつて、前に擧げた法律上虐遇されてゐた凡ての權利、即ち定約權、相續權、財産權、經商權とを要求し、敎育權の平等を得ようといふに他ならないと、當面の運動者は語つて居ます。かうして一方に打ち破らなければならない習慣上の强い羈絆があるのであります尤も法律上に權利の平等を得られる時に、凡てこの問題は自然解決されるわけではありますが、長い間の固陋な習慣はなかなか目覺めた婦人達の樂觀を許さない、そこにまた新たに加はつて來る婦人の勞働問題などもあるのです。殊に戰爭また戰爭と打つゞいた國難は、一層婦人のために不利なので、

それだけに苦闘の程も想ひやられる次第です。若し支那の時勢が急轉して新らしい合理的な政治が行はれるとすれば、婦人のためには、待つて海路の日和を得た事になるのですから參政運動の必要もなくなるわけですが、今のところでは到底手を緩める事が出來ないで、ます／＼奮闘を怠らないのみかその手を伸べて日本婦人との提携によつて東洋の勢力ある婦人團體を作り、婦人の權利獲得に向つて進まうとする希望さへほの見えます。

×

先き頃私共の來濵を聞いて、上海の女子靑年會、婦人矯風會(節制會)と女子參政權協會が會同して親切にも私共を招いて下すつた其席上で話した言葉が思ひがけない反響を齎らして、すぐ其翌日熱心な一人の中國婦人は、私共を訪ねてこられました。聞くところによればその婦人は嘗て井上匡四郎、望月小太郎、植原悦二郎氏などの北京に來られたのを訪ねて日本婦人が豫てから運動してゐる公民權と參政權との問題を是非とも今期議會において目鼻をつけて欲しいと力說した相ですが、其成行きは何うなつてゐるかを私共にたづね、併せて日華聯合の婦人會を起し度いといふ希望を述べられましたが、女士の熱誠に私共は少なからず感激させられたのでした女士は朱劍霞といつて勸業女子師範學校の校長です。そして望月氏との會談において、氏が詩を賦して感想を言ひ現はしたのに對して女士はまた詩をもつて應答して居られます。左にその詩を紹介いたしませう。

歐州文物策縱横　國小人繁奈後生
半生確懐聯亞計　大東何決訪同盟

これに對して女士の答へたところは、

莫懼軍神西海横　女兒和平花正生
一陰一陽之謂道　大道完成平等盟

と、この句でした。また次の望月氏の、

君不見州川文化壓極東　亞洲山河入中彀
殘者尙有一大國　日華運命須和衷

に對しては

英雄淘盡大江東　男女平權一夢中
寄語東隣賢姉妹　同携素手慰和衷

とありました。如何にも女士の盛んな意氣が言外に溢れて居るではありませんか。これを見る日本の女子が一ト言なくてはならない樣に思はれます。

# 或る若い看護婦の言葉

重富すま子

◇

金だ　金だ　金だ

『貧しき者は幸なり』

私にはこの言葉が何をもたらしてくれるのだらう。

『持てるものは與へられて餘りあり、持たぬものは持てるものをとらるゝなり』

さうだ。

唯一の貞操さへも奪はれやうとしてゐるではないか。

◇

もし私が貞操を奪はれたにしても誰が私を非難することが出來よう。

私は貧しいんだ私は弱いしひたげ續けられた貧乏人の子だもの。

◇

私は看護婦を止めたい

私は私の夫となるべき人への尊い贈りものとして、けがれなき貞操を捧げ得る女たる爲に。

金だ　金だ

私がやめたら私の家は何を食つて生きればよいのか。

◇

日毎々々なんていい加減な生活だらう。

『着物を買つてやるよ』ふん、なんて、馬鹿にしてら。

頬べたをなぐりつけてやりたい。

『私はやめます』と辭表をなげつけることの出來ない境遇を引裂いてやりたい。

谷村さんが、やめる時に言つた。

『用心なさいよ』つて。

時子さんだつて、山田さんだつて皆、貞操を蹂躙されることを防いだ爲に、やめさせられたのだ。地位と、金の假面を屹度引きめくつてやる。今に。

◇

みんな金の味方だ、地位の味方だ

星を食つても生きられまい

月を食つても生きられまい

貧乏人はどうすればよいのか。

◇

『おい此頃お前は俺をさけてばかりゐるね』

あほらしい

そんなこと言ふ暇に『しは』の數でも數へたらいいわ。六十と幾つ位あるかしら。

◇

あいつの爲に貞操を奪はれた女が幾人かあると。何故みんな默つてゐるのだ、何故この社會から蹴落してやらないのだ。

◇

きれば血の出る樣な生活。

ものと一つになり得る瞬間。

感激の一秒時でもほしい。

# 婦人俸給生活者の同盟を提唱す

開地敏子

私は苦しい體驗から、私の貧しい經濟的立場を多少でも緩和して生活の安定を計る爲に、引いては一般無産俸給生活者の經濟的地位をいくらかでも安固にするために、私が十年も以前から心の底で考へてゐたことは、婦人俸給生活者相互救助同盟を創つて、婦人俸給者の地位の確立、品性の向上、機會均等相互救助の圓滑を計り、實際運動としては俸給生活者保護法案なるものを議會に提出したいとまで思つてゐたのである。そしてそれを多少具體化仕様とした矢先に或職業婦人から次の樣な言葉を聞かされて、多少考へねばならなくなつた。その女は斯う云ふのである。

『私などは家が貧しいから、會社から頂く俸給はほんの少し小遣として差引いて、三分の二以上は家庭の足しにするのだけれど開地サン、現在女學校を出たばかりの所謂モダーンガールと云はれる職業婦人の御連中は、それはそれは贅澤なのよ、お給料は殆ど紅白粉やオペラパックになり、其他多少心掛のよい人はお嫁入りの着物にする、甚だしい人になるとお小遣が足りなくて親から毎月別に頂く人もあるのですもの、そんな結構なお身分の職業婦人は相互救助だの同盟なんてことは爪の垢ほども考へてやしないワ、生活苦なんてことを眞劍に考へたことのない人達ですもの』と云ふのである。

×

世の中は隨分不景氣である。東京市内に少くとも失業者が三萬以上もあるそうだ。經濟的壓迫は婦人を家庭内に安住するを許さず娘も妻君も未亡人もをドシドシ街頭にひつぱり出して、婦人解放の一エポックを作つた。

だが併し前述の様な言葉を、現在職業に携りつゝある職業婦人から聞かされたとすると、娘と云ふ階級に屬する婦人は或一部の人々を除く他は、まだ〲封建時代の夢を見てゐるらしい。即ち現代に於て痛烈に生活苦の苦盃を舐めさせられてゐるものは寧ろ既婚婦人であり未亡人ではあるまいか！

だから夢を抱いてゐる者は、夢の醒めるまで眠むつてゐるがよい。決してその夢は長くはない、春の夜よりも短い、で私は今已に夢から醒めて、現實の苦惱に喘ぐ人々に、先づ此一文を捧げ度いと思ふ。

×

『泣く兒と地頭には勝れぬ』と云ふ諦め哲學＝封建思想＝を錦花玉條として、資本家階級のカラクリ＝トリツクを御無理御尤と首肯して、最近まで自己を度外視することの甚しかつた勞働者階級は、所謂マルクスの『世界の勞働者よ一致せよ』と云ふ言葉に刺戟されて、奔然と自己を內省し、自己を凝視し、世界の大勢に刺戟されて資本家に對抗するものは團結より他にないことを悟り、勞働組合、農民組合、其他各立場に於て組合を組織し、共同戰線を張ることによつて、現今資本家の横暴搾取に對して對陣する様になつた。（それはまだ完全なる團結へのプロセスであつて、甚だ物足りない點もあるとは云へ）兎にも角にも彼等の階級はユニオン、イズ、ストレンクスと云ふことを悟つたのである。

×

だが俸給生活者――頭腦勞働者は什うであらうか？

彼等とても決して自己の地位に安じて安閑と空嘯くことの出來る程結構なお身分でないことは有產階級でない以上は判り切つたことである。

彼等は一度も團結、共同一致の必要を痛感しなかつたのであらうか？

否私は數々悲慘な實例を知つてゐる。妻子を抱えた下級俸給生活者が、何の理由もなくして『明日より出社に及ばず』と一葉のハガキ、たつた一葉の官制ハガキで首を切られた事實を、財政整理其他雇主側の都合而已にて、何等の理由なく一厘の退職金も支拂されず解雇されたものを、また病氣欠勤が多少長引いた爲解雇されたもの等々……狹い私の周圍だけでも數ふるに暇がない。ましてそれが婦人となると性の問題までがからまつて、重役支配人の思召に從はないとか、美人事務員が見付かつたなど云ふ様なことで解雇されたと云ふ

ことも暫々聞く。

　これ等は勿論法律上何等解雇さるべき理由なくして解雇されたものであるが、かゝる場合に素手で追ひ出されたとて、彼等俸給生活者には何等のバックも何等の法律も持たないから泣寝入りである。

　組合のない所に力はない、聯盟のない所に力はない、一致團結のない所に一切の力は否定される。長いものには卷れろなんて考へて泣き面して引き下るより此際能がないとは何たる無恥であらうか？　勿論それを痛切に不合理なことだと考へない程生活が切迫してゐないで、余裕があると云ふのなら無恥を嗤ふともまだ結構だ、だが其處に不合理と社會制度の欠陥を考へないと云ふのなら全くノンセンスぢやないか、私は悲しくなる。

×

　私が聞く所に依ると、神戸東京あたりには、サラリーマンス、ユニオンと云ふものがあるそうだし、また東京の社會民主黨に籍を置かれてゐる小池四郎氏はつとに俸給生活者同盟に就いて研究されこれを具體化される御意向があると聞いてゐるけれども（小池氏は社會民主黨パンフレットとして俸給生活者保護法案と云ふのを出版されてゐる筈、私は讀まないが）それ等の既成サラリーマンスユニオンが、他の勞働階級（筋肉）に比較すると實に影の薄いものであつて、確たる働きをなしてゐない様に思ふ。

　工場法、鑛業法は枉りなりにも法案となつて社會に現はれてゐるし、勞働者階級は昨今あなどり難い勢力を示してゐるそれに不拘ひとり、やはり勞働階級に屬すべき、下級頭腦勞働者が如何にもインテリゲンチヤ顔に、凉しい顔をしてゐるのは物足りないよりも、寧ろ齒がゆい、だからこそ私は拙い筆ながら奥女史に依頼して此一文を『婦人運動誌上』に發表さして頂くのである。

×

　現在職業婦人の數は、如何程あるかと云へば、頭腦勞働者に屬すべきものは、少し調査が古いが、教育に關する業務では、七七、八九三人（大正十年文部省調）官廳雇傭四三、八七一人（大正十二年末統計年鑑）商業上雇傭五二、六四〇人事務員四六、七二〇人店員四一、〇一七人、タイピスト五、四三三人交換手二六、四七〇、新聞雜誌一〇〇〇人、そしてこれ等職業婦人（大正十二年東京市調査推充）中の約一割は、有配


資本家
無産階級
貳千円也
壹千円也
五百円也

偶者であり、未亡人であると云ふのであるから、或一部のものに取つては、職業は遊戯であつても、或一部のものには、眞劍なる生命である、私は今其職業を生命とする婦人に既婚未婚を問はず大きく叫びかけ度いのである。量よりも質に於て……

×

皆様！　婦人俸給者相互救助聯盟を創りませんかと……

1、貴方達は現在の經濟的地位に何の不安もありませんか？

2、貴方達は行末(未來)に何の心寂しさも感じませんか？

3、貴方達は過去に不合理や屈辱を感じはしませんでしたか？

4、貴方は一厘の貯金も持たないのに、突然一厘の手當もなく解雇されたら什うしますか？

5、貴方が病氣したら什うします？

(健康保險法の適用は俸給生活者にはない。)

6、貴方の貞操が危機にあるとき什うしますか？

問題はこればかりではありません。出産時産前産後の規則も勞働婦人には完備されつゝあるのに、俸給生活者は或一部(學校教師)等を除く他は何の用意も半分の保護法案もないぢやありませんか。

×

まだ〳〵私の云ひ度いことは澤山あります、だが斯う云ふことに何の關係もない人の爲に多くの貢を割愛して頂くことはすまなく思ひますから私は書きません。眞に生活苦を味つてゐる人、眞面目に生活を考へてゐる人、社會改善に生き度い人什うぞ私に御便り下さい。

勞働階級婦人のことは、其道の人に讓り度いと思ひます。

私は私の立場から眞劍に職業婦人——頭腦勞働者——俸給生活者のことを考へて見度いのです。

勿論職業婦人問題に多大の貢獻をされてゐる奥女史は、私の計畫に同情も賛成もし、大きな力になつて下さることを疑ひません。産みの苦しみはあつても、何處までも根底を母と云ふところに置て喧嘩腰でなく『微笑する態度に於て』私は此同盟の成立を何よりも祈るものであります。

（附）

工場法＝大正五年八月制定

鑛業法＝明治三十八年三月制定

勞働組合法＝第五十二議會に提案されたが握潰しとなる

## 婦人政治運動促進會から婦人同盟まで

二月三日婦人政治運動促進會のビラは飛んだ。

第一に婦人の政治結社權
法律上に於ける男女不平等の撤廢
男女不平等賃銀制の撤廢
敎育上に於ける機會均等
公娼廢止
婦人の夜業及坑内勞働禁止
母性保護、兒童保護等

きはめて婦人大衆にとつては當面の問題ばかりをあげて手近いところから解決を期してゆくと同時に、これを一つの政治的な無産婦人啓蒙運動として押し進めてゆきたい趣旨であつた。

同五日、主婦の友社の樓上で第一回の準備會をしたときも、あの大雪に降りこめられた晩であつたにも拘らず、百人ほどの婦人が場内にあふれて、婦人ばかりの會合には曾つて見なかつた位盛んに氣勢があがつた。

×

これまで行はれたいろ〳〵な婦人運動にいゝ加減期待を失ひかけてゐた社會が、この新しい婦人の團體の成立を歡び迎へてくれた事は豫想以上でした。積極的にこの新しい團體を支持して進んでゆかうとまではしなかつた人の中にも、在來の婦人運動に失望した重い心を私たちの方に近よせて大分動きかけて來た事を私は見のがすわけにゆきませんでした。

×

ところが、名も婦人同盟と改めて大同一致して輿論喚起につくさうと、盛んな拍手裡に散會したのであつたにも拘らず、この會は今行き惱んでゐるのです。

婦人の勞働組合として最も大きな紡織勞働組合、約一萬の女工を擁してゐる)から、それまで共々に準備行動をつゞけて來た左翼を除外しなくては駄目だと急に云ひ出したことも大きな原因であつたし、いはゆる左翼の婦人の間に折衷派（現實派）と理論派(極左系)との激しい内輪もめがあつた事も原因であつたでせう。何しても遺憾に堪へない事でありました。

×

私は獨斷で、第四回準備委員會を無期延期の通知を出した責任者ですが、それについては、紡織勞働組合を事實上指導してゐる男子幹部の專斷な態度に對していろ〳〵考へさせられたし、左翼系統婦人側の內訌に就いても、その背後に働く男子の大きな指導權を見るにつけても、さうした男子指導者のようかいに對して婦人がしつかりした立場を未だ持てないでゐるらしい事について深く考へさせられたのであつた。

無産者の解放運動に男女の別がある筈がない事は勿論であるが、實際問題としてかうした事實にぶつかる每に、亦してももつと女がしつかりしなくては駄目だなあと痛感しました。

×

然し婦人同盟が企圖したやうな運動は、必ず近い將來に根强い婦人大衆の叫びとして火蓋を切られるに違いないのです。わが職業婦人社では、一日も早くさういふ日が到來するやうに直接間接に努力するためにコツ〳〵基礎を固めてゆかうといふことになりました。（奧むめお）

# 政治の經濟的基礎（二）

## ――我國無產政黨の將來――

辰巳經世

### 三　政治發達史略說

今試みに人類社會に於ける政治組織の發達の過程を簡單に辿つて見ると、多少の例外はあるにしても、大體各國とも長老政治、賢人政治、武人政治、金力政治の順で進んで來てゐるのである。

#### 第一期　長老政治

原始時代に在つて、極く少數の同一血族の集團から成つてゐた所謂同族國家の時代に於ては、その集團中の最年長者が族長となつて人々を支配して居つたのである。この時代の政治を普通長老政治と呼んでゐる。然らばこの時代に何故最年長者が政治上の權力を有つてゐたかと云ふに、神樣が『汝行きて治めよ』と云ふ風に命令されたからでもなければ、彼が特に英雄偉人であつたからでもなく、或は老人だからこれを敬ふと云ふやうな道德上

の正義觀念からでもなかつた。一般にこの時代の生活樣式を考へて見るに、當時の人々は山野の獸を狩つたり、河海の魚貝を漁つたりする狩獵生活を營むとか、或は家畜の群を連れて所謂水草を追ふて轉々する遊牧生活をするとか、或は一定地域に定住して極めて素朴な農業を營んで生活してをつたのである。未だ學問知識と云ふやうなものは全然發達せず、文字の如きは勿論未だ知られてゐなかつた。だからどう云ふ所に獲物が澤山ゐるとか、どんな方法を以てすれば最も多く魚が漁れるとか、家畜を放すのにはどんな場所が適してゐるとか、或は何の種は何時頃播くとか云ふことは、たゞ人間の經驗に頼つてのみ初めて可能であつたのである。而してこの經驗を最も豐富に有つてゐた者は、言ふまでもなく世の中に最も長く生きて來た人即ち最年長者であつたのであつて、若い者は何をするにしても年寄の言ふことさへ聽いてをれば間違なかつたのである。かくて長老の經驗がその當時の經濟力、特に生産力を支配する唯一のものであつたといふこの事實こそ、やがてその長老がその部族の支配者たるの權力を握るに至つた原因である。

## 第二期　賢人政治

ところが人口が漸々增して來る。社會生活の樣式が益々複雜となり、工業——と言つても極めて原始的なものである——が起り、分業（又は協力）が發達し、社會の經濟を支配するためには可なり複雜な知識を必要とするやうになつて來る。一方文字——これ又極めて原始的なもの——が發明せられ、先祖の種々の經驗が文字に書き殘されるやうになる。かくの如き時代になつて來ると、單に人間一代の經驗だけでは大して役に立たなくなり、寧ろ若くても東西古今の複雜な經驗知識を有する者の方が、支配者として適當となる。即ちこゝに於て賢人政治の

時代が來るのである。即ち經濟生活を支配する力の要素が、單に年長であると云ふだけでは足らず、種々の複雜なる知識を有する賢人でなければならぬことになつたのであつて、この時代の政治が即ち賢人政治である。

## 第三期　武力政治

政治組織が右の如く變つて行く一方、人間の經濟生活は更に變化して行く。即ち人口の絶えざる增加、慾望の不斷の增進と複雜化等が生產方法の發達變化を促し、何よりも最も顯著な現象としては、自給自足的な封鎖經濟の孤立性が破れて部族と部族、村落と村落、國家と國家との間に種々の交涉が起つて來るやうになる。而して初めの間はこの交涉は多く生活資料の武力的爭奪の形で現れる。即ち自己の集團の生產力を防禦するため、或は他の集團の生產力を掠奪或は支配するために武力が重要となつて來る。かくて武力支配の政治組織が成立するのである。

勿論社會の進化過程は極めて複雜なものであつて、僅かな言葉で簡單に片づけ得るものでなく、又幼虫が蛹となり、蛹が蛾となるやうに明確に各時代の間の區劃を畫くことはできないのであるが、各國とも大體以上述べたやうな順序で政治組織が發達して、近代に至つたのである。

## 第四期　金力政治

かの第十六、七世紀頃以來の歐洲諸國に於ける幾多の發明發見の結果は、社會の生產方法の上に一大激變を齎し第十八世紀から第十九世紀にかけての所謂產業革命がこれに續いて起つて來たのである。その特徵を一々述べるのは容易でなく、又本稿の目的でないから略するが、今こゝに必要な限りに於て極く顯著なものの二三を擧げる

と、機械の使用、大工場の建設、大規模産業の發生、貨幣經濟の一般化等を擧げることができる。而してこれらの機械を買ひ、大工場を建て、大規模産業を營み得るだけの資力ある者が、社會の生産力を支配し得るやうになつたのである。國防に必要な武力の內容も封建時代と全く異るに至つた。即ち武器が全く面目を一新した結果、封建的な個人的武力といふものは全然役に立たなくなり、大軍隊を支持するためにも、是非とも資本の力に俟たなければならなくなつたのである。かくて封建制度即ち古い武力政治は崩壞して、資本が單に生産力を支配するのみでなく、この生産力の支配といふ事實を通じて、一切の社會的權力特に政治上の權力を掌握するに至り、こゝに現今の所謂金權政治、若くはブルジョア政治が成立したのである。『政治は正義である』と謂はれてゐる一方、例の『松島事件』だとか何だとかいふやうな問題に、各政黨の有力者が兎も角も何程かの程度に關係してゐるといふことは、皮肉にも却つて『政治が力——金力——である。』事實を期せずして曝露してゐるのである。大政黨の有力者がかくの如き事件に連座することが、法律的に或は道德的に、正しいか正しくないか、善いか惡いかといふことは吾々の問題とするところではない。兎も角も現今の如き資本主義社會に於て大政黨を支持し、或は政權を掌握するためには、現在社會に於ける力即ち金力が、如何に必要であるかを證據立てるには充分であると思ふ。

## 四　無産政黨の擡頭

最後に、然らばこの金力政治が政治組織の最終の階段であるか。換言すれば將來永劫に金力政治が存續するものであるかと言ふに、吾々は躊躇するところなく、『然らず』と答へ得るだけの事實を既に現在の社會の裡に見出

すことができるのである。即ち金力政治は今や崩壊の時期に第一歩を踏み出し、これに代つて勞働政治が黎明の光を浴びて孤々の聲を揚げつゝあるのである。今や資本は正に支配的地位を失はんとしてをり、勞働がこれに取つて代らんとしつつあるのである。この問題は本稿の結論であり、又中心であるから以下できるだけ詳しく述べて見たいと思ふ。

### イ　資本主義の崩壊過程

前にも述べた通り、産業革命の結果齎らされた資本主義經濟組織の最も顯著な特徴は、機械の使用と大規模産業の發達とであるが、更にそれに伴ふ結果は、無産勞働階級の發生と、これらの無産勞働階級が漸次相互に提携する機會を與へられつつあつたといふ事實である。即ち資本主銀發生の當初に於ては、機械に依る大規模生産の結果多數の手工勞働者が舊來の職業的地位を失ひ、相次で工業勞働者となつて行つたのが第一の事實である。初め都會にのみ見た資本主義が農村に侵入して行つたために、農村に於ける封建的生活様式が崩壊して、農村人口が漸次都市に流入し、これ亦工場勞働者となつて行つたのが第二の事實である。而かも資本家に取つては、生産費と生産結果との差額が利潤となるのであるから、この利潤をできるだけ大にするのが彼らの唯一の目的である以上、生産費をできるだけ少くし、生産結果をできるだけ大ならしめんとすることが最も重要であるのは當然である。從つてその生産費の最も大きな部分を占める勞賃をできるだけ少くし、生産結果を大ならしめるために勞働時間をできるだけ長くしやうとするのも又當然である。ところが勞働者に取つては勞賃を得ることが唯一の目的であるから、彼らができるだけ多くこれを得やうとし、而もそのために拂ふ犧牲である勞働時間のできるだけ

短かからんことを望むのも當然である。かくの如くにしてこれら兩階級の間に明白な利害の衝突を見るに至つたことが第三の事實である。然るに勞働者は無產者であるから、一人一人として見れば全然無力であるが、幸か不幸か、大工場に多數密集して業務に從事するが故に、自然利害の一致を自覺し、團結の效果を悟るに至つたといふこと、これが第四の事實である。

かくて同一工場に於ける勞働階級の團結から、異つた工場の勞働階級の地方的團結、全國的團結、最後に國際的團結をまで見るに至り、資本主義組織は今やそれ自身の裡に自らを葬るべき墓穴のあることを發見して驚いてゐるのである。一方勞働階級が繰り返し行はるる產業鬪爭から得る訓練と統制とは、民主主義的或は社會主義的教育の普及と相俟つて、漸次資本主義に對する攻擊力を增しつつあるのである。今や資本は產業支配の唯一の力ではなく、勞働がこれに對立する、若くはこれを壓倒しつつある有力な力となりつゝある。こゝに於てか、勞働は又產業に對する支配力を通じて、政治的權力をすら着々として獲得しつゝあるのであり、反對に資本の力はそれだけ政治上の權力から驅逐されつつあるのである。（次號完結）

# 春風句抄

下村悦夫

春かぜや松ばかりなる淡路しま

春かぜや野の果てを行く人と馬

松原に添ふて人家や春の雨

春かぜのどこまで帆掛けゆく舟か

小松やま篠竹はらや囀れり

わだなかに花曇りたり淡路しま

宵月や附け捨て野火も消え果てて

春かぜに吹かれて在せ石地藏

囀りや動かぬ泛木を見てあれば

淡路しま曇るあしたや揚雲雀

啼き澄みて雲雀は天にかかりけり

畦燒きや山の峽間の段々田

牡丹花やあをき蟲ゐて哀れなり

鶯や籔にあふるる日の匂ひ

長閑さや土手にもの言ふ牛と馬

# 北村兼子氏の近著「怪貞操」を讀む

水谷長三郎

今どきの若い女の人たちは、自分たちの貞操と云ふものに對して、どんな考へを懷いてゐるだらうか。別して、所謂世の中から、あの女は、少し目覺めてゐると視られてゐるところの人たちは、自分の貞操に對して、懷くところの考へ方は、果してどんなものか。――極めていそがしい生活を强ひられてゐるわたくしも、時々高等學校時代のロマンチイズムが、酒の醉ひと共にコミ上げて來て京極裏の安酒屋で、ゴールデン・バツトの輪を吹かし乍ら、たはいもない考へに耽る。

此んな私の考へが、關西ピカ一のモガ、大阪朝日新聞の記者、北村兼子女史の著『怪貞操』を繙かしめた。私はその書に於いて、所謂目覺めたる現代の若き未婚の女が、自已の貞操に關して、どんな考へを持つてゐるかを眺めやうとしたのであるが、不幸にも、それは、全然徒勞に歸した。只だ、徒らに、女史の怪氣エンを聞かされたのみで、女史が、我れこそは現代に生きるモダン・ガールの代表として、貞操に關して此んな考へを持つてゐる、といふやうな、積極的の意見は、おくびにも出してをらない。之れじや、一人の女史をとりまいて、女史の貞操が怪しいぞ、彼女は一ダースの情夫を持つてゐる等とわめき立てる、二十數種の新聞雜誌が、旅路に迷ふ若い女をゆする雲助輩だとケナすことは、勿論尤もだが、之れを相手に、此の雲助輩と同じ不作法さの筆を以て、何んの貞操に關する定見もなく、ワメき立てる女史の態度も、さう立派だとは云ひ兼ねる。

それは、雲助にいぢめられる旅の女でさへも、只だアレヨ〳〵と聲ふり上げて、しどけなく逃げまはるのみでは、とんと、その女がいぢらしいとも思はれない。その場合、その女は、雲助たちの持ち得ざる、或る女特有の力を以て、奮ひ立つてこそ、初めて雲助を克服することが出來るのだ。惡德記者が北村の貞操は怪しいぞ、一ダースの情夫があるといふことも、いつ何日、彼女が或る男と關係したといふ、俗に云

ふ現場を押へた、確たる證據の無いのも事實だし、又之れに對して、女史が柳眉を逆立てゝ、そんな馬鹿なことがあるものかと、盛んにタンカを切つてゐるが、しかし、そんな馬鹿なことが無いと云ふ、テツカクな證據もない。議會の答辯ぢやないが、肯定も出來れば否定も出來る。こんなことで、一人の婦人記者をヤツつける惡德記者の方にも、蠱惑的な享樂があり、之れに對し、女史の切つたタンカも、二週間で二版を重ね、日東蓄音機にまで吹き込まれたら、マンザラではあるまい。しかし、こんなことで、チヤン／＼バラ／＼やつてをられた日には、それこそ、第三者の立場から云へば、女史の言葉じやないが、しようもないの一話に盡きる。

一體、女史は、貞操に關して、どんな考へを持つてゐるのだらうか。女史の考へでは、『貞操といふことは極端な例を除いては女性が持つ弱點であり』さうして『卑怯な男』が『その抵抗力の稀薄な戰線をねらつて夜襲する』のだ貞操が女性の持つ弱點とは、どう云ふ意味だらうか。恐らく、此の貞操が、一度怪しいと睨まれたが最後、又、此の、貞操が一度汚されたが最後、極端な例――例へば貞操を賣物にする賣春婦――をのぞき、根本的に、その女性は、臺なしにされるといふことを意味するのだらう。女史が、ヤツキになつて、惡德記者の漫罵に答へてゐるところを見ても、さう解釋したことは、あながち、私が勝手にでつち上げた曲解だとは云へない。

私は、かやうな貞操の考へ方に反對せざるを得ない。端的に云へば、貞操とは、一つのブルヂヨア・イデイオロギイーに過ぎない。それは、ブルヂヨア社會に於いてのみ認めらるゝところの一つのタブーに過ぎない。貞操が女性の持つ弱點であるとの考へ方は、女は一個の商品であるといふ――前提の下に於いてのみ、初めて成立し得るに過ぎない。丁度、賣買の目的物たる品物に、疵物が排斥されるやうに、異性間の取引市場に於いても、女性の疵物――一度、貞操の侵されたるもの――は市場價格を低下する。一度、嫁入りして、戻つた女性をば、あの人は疵物だと、世間のよく云ふ言葉は、此の間の事情を最もよく語つてゐる。けれども女性だとて一個の人間である以上、貞操は女性の持つ弱點だといふやうな考へ方は、斷じて許されない。人間である以上、戀をする。戀をする以上、貞

操は委ねられる。さうして、その戀が失敗すれば、その女性は、傷ける貞操を抱へて、自分は疵物だと自覺し、世間は疵物だといふ。これぢや、女性にとつては、戀愛もすることは出來ないこんな、ベラ棒な話はない。

凡そ、男女間の性交は、それが戀愛に根ざしてゐる以上、決して排斥すべきものではない。例へ、北村女史に一ダースの情人があつても、それが一時に一ダースではなくて、順時に作つた情人が一ダースに達し、さうして其の一人〳〵の情人と性交關係があつたとしても、それが戀愛に根ざしてゐる以上、北村女史たるもの、決して面を赤くして、恥入るには及ばないであらう北村女史が、職業婦人となつてから、もう、二、三年は經つてゐるだらう。二、三年といへば、その月日の間には所謂惡德記者は、女史の貞操を攻擊しつゝも、自分自身は、一ダース以上の女を侵してゐることだけは事實だ。

かやうに云つたとて、私は、一人の女が、僅かの年月の間に、一ダースの情人を作ることを、おすゝめする譯じやない。貞操が、ブルジョア・イデイオロギイーであり、一つのタープであると云つても、だから貞操は輕んじてもよいと云ふ結論は出て來ない。それは丁度、現代の經濟組織の下に於いて、勞働者が働くのは、資本家に剩餘價値を搾取されるから、だから、働かなくてもよいと云ふ、結論が湧いて來ないやうに。――すべては、矛盾の對立を經て・發達してゆくのだ。

只だ、私は、男性研究の名の下に、大膽に一ダースの異性と疑似戀愛をやり、従つて、貞操を怪しまるゝ女史にその貞操に關し、はつきりした考へを聞きたかつたのだ。それだのに、女史は、その貞操に關し、やつぱり昔のやうな考へ方より一歩も拔け切らないでしかも、その貞操を怪しまるゝやうな行動に出るのは、どんなものか。初めに信念あり、後に行動ありだ。はつきりした貞操觀念も握み得ないで、好んで貞操破壞に出るやうな行動を取るのは、考へやうによつては、金で貞操を切賣りする娼婦と少しもかはらない。なんぼ『戀愛研究』とか『男性研究』とか、美しい名をつけても！

女史が、惡德記者を完全にやつつけるのは、只だ、はつきりした貞操觀念を樹立するのみだ。漫罵に答ふるに、漫罵を以てしてゐたゞけでは、とても駄目だ。盛んに、疑似戀愛をやり、盛んにタンカを切つて、世間を騷がし、

以て、モ・ガ振るのは、近所泣かせのピアノをたゝく、お孃さんより、その罪斷じて輕からずだ。

× × ×

最後に斷つてをくが、私は京都に住んでゐる以上、未だ、幸にも、女史の戀愛研究の對象にされたこともなく、從つて、凡ては『恩シユーの彼方へ』の關係に立つ。只だ、私は、モダン・ガールの名の下に於いて、或は戀愛研究の名の下に於いて、何等、自分には、はつきりした貞操觀念を握み得ないで貞操破壞の擧に出る女性を、あさましい者と考へる一人だ。所謂、關西には珍しい北村女史が、一個の人間として又一個の目覺めたる女性として、人生の正道を步まれんことは、いろ〱の意味から云つても、望ましいことであらねばならぬ。之れ、私の執筆の動機――決して、他意あるに非ず。それこそ、女史流に、俳句を以て結語とするならば、誰かの句じやないが、

『にくしとて叩くにあらず雲の竹』

と云ふべきか。

――二、三、一六――

**婦選案三つ** 今期の議會では婦人參政權案も、婦人の政治結社權案も、市町村に於ける婦人公民權案も、三つ共に法律案として提出された。然し、彼ら政黨屋どもにとつて重大事件が多かつたためか、今日までには（三月廿日）衆議院さへ上程にならずにゐる。幾度か議事日程に出てゐたがいつもお流れになつてしまつた。

**東京市の新入學兒童** 昨年はその前年よりは五千人増してゐたが、今年は更に七千人増しの見込みである。現在八十八校で行はれてゐる二部敎授を今年からは、百校以上で行はないと收容し切れない由である。

**看板タイピスト** 丸ビルの表口の日本タイプライター會社では、硝子戸越しに澤山の妙齢の美人にタイプを打たせてゐるのでいつも人だかりがしてゐる。最近朝鮮婦人が一人加つたので更に異彩を放つてゐる。

**花柳病豫防法案の不評判** これは政府提出の案であるが、その第五條に傳染の虞れある花柳病に罹つてゐる事を知つて賣淫をなしたものを三ケ月以下の懲役に處すると規定してゐる外、男子側の取締りを忘れてゐるのは片手落であると非常に不評判である。

**母子扶助法** 母子扶助法が今期議會を通過して實施されさうであつたが、途中ではうむられてしまつた。豫算成立の見込みがないとか、一般救貧法の中に含めて改めて作り直すのだとか云ふことである。

婦女新聞社の母子扶助法制定促進會では輿論を高めるために新しい運動を始める。

# ….PRIVATE PAGE….

只今三月號を落手致しました。取りあえず『編輯室にて』を讀みました。外のものは未だ、何んにも讀みません。そしていきなりこの手紙を書くのです。

凡そ、あなたほど世の中に幸福な方はありません。

いゝお友達が八人もふえたのですか。購讀者がうんとふえたのですか。何とすばらしい女なのでせう。私は體が丈夫なら、今すぐにでも飛んでいつて臺所の仕事でも、洗濯でも、何でもして上げ度い。そしてこのすばらしい方の内助の功をして上げたい

千葉とし子

縫ひ物でも張り物でもして上げ度い。私は臺所の仕事は上手です。そして大變早いんです、お女中は居るんですか。縫ひ物があつたら一コーリ位ひ送つておよこしなさい内には唖ですが縫物の上手な女が居ります一日ぶら〳〵して居ますから私はそう思ひます。現在は女に生れることは不幸だけれど、將來は女の方が遙かに幸福だと思ひます。

そんなことはどうでもいゝけれど、もつとあなたの生活を樂にさせて上げたいでもあなたは永久に樂にならないかも知れませ



## くりごと

むめお

自ら稱して PRIVATE PAGE といふ。私の頁です人に見て貰ひたくない頁であるからです。自分だけがソつと見て、素早くかくしてしまつて知らぬ顔をしておきたい頁であるのです。人は何故だと云ふでせうか。だつて、假りにも自分たちの手で作つてゐる雜誌にかういふものを麗々しくのせるのはどうも氣が射して仕様がないでありませんか。

『初めて奥に會つたことども』の岸川さんからは三度目のキツイ督促をうけました。(これを書いて下さつた岸川さんの好意はよく解ります)いろ〳〵仕事を手傳つて貰つてゐる鈴木さんも載せろ〳〵と煩くて仕様がない。私は一體ちか頃、變にゆううつでゐます。それでもぢ〳〵してゐる内に、勝手にしろ――つて風な妙な氣持になつ

んね、けれども、よい多くのお友達がふへる許りで、きつとあなたを喜ばせるでせう。そして私達も共にそれを喜ぶのです。私は體を丈夫にして上京したら、吃度臺所の仕事をして上げます。先生の奥さんになつて上げませうか。內助の功どころでは無く、始終しかられてる程度の奥さんかも知れないけれど……。

兎に角私は今産後で體が大變つかれてゐます。醫師にかゝるほどの病氣はないのですけれども、二年と二ケ月の間に男兒二人を生み、同時に二人とも亡くして仕舞ひました。今度の子供などは生れて産聲を三聲泣いた丈けです。私は非常につかれました……二年程産兒制限して專ら身體の休養をしなければなりますまいね。いつかは産兒制限の御本有難う御座いました。今もそれを出して讀んで居た處です。今頃になつて御禮を申し上げます。

さよなら。

## 香取とき子

『婦人運動』が近來非常によくなつた、といつて賞められてゐるのを聞く每に、私は自分がほめられてゐるやうに得意になります。あなたが云づてゐられる通りに、全く今の婦人界にたつた一つしかない、意義あり主張ある立派な雜誌です。よくあなたは今日まで守り立てゝ來て下さいました。私なんか至つて無力ですけれど、御一緒にほんとうに力を合せてこれをもつともつと立派に育てゝゆきませう。

ところで奥さん、この雜誌の創刊號の扉にあつた寫眞——あれはもう五年前のこと

---

てしまつて鈴木さんの云ふなりになつた醜態でした。

一體、私あてにいろいろ送られて來る書面などとりあげて行つたらきりがありません。私は鈴木さんがえらんだ上段の三つのものを載せる以上、もつともつとのせなければ氣のすまぬ手紙が幾らでもあるのに、と、さう思ひ乍らも今の變にもの凄いこの精神狀態では全てがおつくうでついそのまゝになつてしまいました。

×

前號で、三月になると私の運は開けるんださうな、と書いておいたので、いゝ運を逃してはいけないとか、しつかりしろ、とかいろいろ勵ましてくれられた人々や、又、どんないゝ事があつたかと問合せて吳れられた人が大分澤山にありました。

今、變にゆううつでなどと泣き言を並べるのはさういふ人達に對してまことに相すまぬ事だと思ふ

になりますね、ほんとうに早いものですこと――あなた方が初めて職業婦人運動の叫びをあげて神田の佛教青年會館で披露會をなさつた日の立つて挨拶をしてゐられる所でせう、あのあなたの寫眞を、私はいつも引張り出して來ては眺めるのですが、あれからもう五年經ちました。五年の間に、私も隨分年をとりましたがあなただつて、あの寫眞の姿の若々しいのをもう一遍出して御覽なさいませ。あの時分のあなたは私は知らなかつたのですが、去年の春からある所であなたを見て、ようく知つて居ますのよ。

それについて、もう五年も經つたのですから、ソロ〳〵具體的な仕事を初なさつたらどうでせうか、もう職業婦人社といへば東京大阪ばかりでなく日本中に鳴り渡つてゐます。私の知つてゐる或人が、あなたはアセつて事を仕損んずる人ではない。けれど、あんなにゆつくり構へてゐるのは、出來ないからか、機をみてゐるのか、どつちか解らぬといふやうな意味の噂をしたのを私は知つてゐます。

何か初めて下さい、何とか計畫が成つてゐさうなものでせう。自重して下さい。婦人界のために大いに働いて下さい。

岸川つるを

---

奥むめおさん！　お名前は多少前に聞いてゐたが、實際お目にかゝつたのは、大正十五年五月二十日の午後、六月號の原稿整理中であつた。まだ見ぬ奥さんを色々想像したのは、何でも東京一流の婦人運動者だから、新しい、上流婦人を思はしめて、洋

---

のですけれど、然しゆうゝつはゆうゝつ、仕事は仕事です。おかげで三月はいゝ月でした。

いゝ事のシンがりを承るものとして私の關西ゆきが殘されてゐます、奈良にも、京都にも、大阪にも、半年振りにゆく私を待ちわびて首がちぎれさうなと云つて與れてゐる友人があるのです。千葉とし子さんの言葉を藉りて云ふならまつたくに何て素晴しく、幸福な私でありませう。私は然々とさう思ひます。

×

縫物があるなら一行李位送つてよこしなさい、といふ手紙を貰つて、千葉さん、私たちはみんなで笑つてしまつたのでしたよ、私には着物が一枚もないからです。

こんな社會的な仕事に忙しく暮らす樣になつてから、私は、殆んど着物らしい着物を持たずに來てしまひました。學生時代に金子の値打ちも知らずに拵へて着てゐた

装か？　和装か？　とても私等のようなつまらない下級なものは、そのお側にもよれない方だらう等と思ふたら、これは又以外お顔にはお化粧のあとさへなく、髪とても無雑作につかね、其他何の飾氣もないお身なり、しかも、その應接のあつさりとしたことゝ、ちつとも角張らないで、振らないで、私のようなつまらない者にまで、ほんとに丁寧謙遜なさいますこと、これが我國一流の婦人運動者奥むめおさん？　幾度か心に叫んでみた。どうしてこんなに打解けて平民的でいらつしやるのだらうと、自分が恥かしく思はれて穴にも入りたい氣がした（以下略）

奥さん！　それは本誌『婦人運動』の發行主筆で、職業婦人問題、婦人參政權問題、家庭爭議の問題、母子扶助法問題、其他消費者としての婦人の問題等について着實な實際運動家、文筆に講演に東西に馳せ廻つて奮闘してゐられる事は、世人のよく知る所、しかして非常の努力家、活動家、自已の信ずる道をまつしぐらに進む奮闘家、御家庭もあればお子様もお二人迄もあつて、それでゐて徹夜の執筆もなされる、社用にも馳け廻られる。よくおからだが續かれる事と感心される。然も雑誌經營の困難なこと他の婦人雑誌の比ではない。（勿論雑誌の性質を異にするから。）しかしその困難と共に働きつゞけられるその勇氣と意志とは敬服の外はない。印刷費の不足額を得る爲め原稿の徹夜速記もなされる。調達にも出かけられる。不思議な御縁から東西三百里を離れた筑紫の果てから上京してお世話になつて私も手分をして随分あちこちを出かけて歩いた、あちらも駄目、こちらもルスで氣が氣でない時に、次ぎは地理不案内のため目白や戸塚とうろつき尋ね廻るうち長い夏の日も暮れ果てゝ、疲れたからだをあせ

---

ものらも、次第に弱つて破れてしまつたし、或ひは藏の中で流れてしまひましたもの。考へてみると家にゐる時も用達しに出かける時も講演旅行にゆくときも、殆んど始終私は人の好意を心に着て〃着で濟ましてゐるのです。それにしても始終心で思ふことですが、私は、たつたこれだけの仕事をして來るためにも、どんなに澤山の人の好意をうけて來たことでせう。

私は暖色よりも寒色の系統が好き模様ものよりは、はつきりとした絣や縞の柄が好き、裄丈もずつとつまつて一尺三寸位が丁度いゝと思つてゐるのですけれど、そんな自分の好みを身につけた日は滅多にありません。（こんなことを云つて、もう友人たちが着物を持つて來てくれなくなつたらどうしませう）

×

然し、こんな習慣は恥しいことですね。わたしゞしい私の心にだつて、身に合つた柄をしつくりと着た人の姿はいゝものですもの。

りながら漸くたどり着いた應接室、不安にかられながら、やつとお目にかゝつた××先生から、奥さんの仕事振りをほめられて、激勵されて私はとう／＼泣けてしまつた。そこで貰つた僅かの贊助金を握つて、空腹を抑へながら、月影を踏んで事務所に急ぐ道、あゝ世の中は金だ！　事業も金だ！　何でも金力だ！　奥さんに十分の資力を持たせて、十分の活動をなさるのを見たく思ひながら……漸く歸り着いてその僅かのお金を前に差出した時、ほんとに泣きたい氣分になる事もあつた。自分の身體の疲れと空腹も忘れて。ある時お小使を頂いた。今迄の俸給生活のそれに引きかへて、とてもこんなお金子が私にやす／＼と使へようか我が身を削る苦を覺えた。今もそのお金子は大事にしまつて持つてゐる。

然し奥さんは强い！　偉い！　ひそかに心の中にこんなに叫ばずにゐられなかつた私はとても堪へないもの……。時にはお子様の相手に、私がお留守居の役もあつた。下の御子様は漸く三才、大分お留守居生活になれてゐるから、非常に手がかゝらぬ。然しそれでも幼兒には母親を慕ふ本能があるので寢覺にはおかあちやん、おかあちやんと、私の背中におんぶされながら、むつがり泣かれる。『かあちやん電車』と言つてあちらを指さゝれるので、省線電車の停留所迄、お迎へに行つて見なければならぬ、そのいぢらしさとかはいさに、身をも骨をも刺された。奥さんは、大抵お子さんを連れて出かけられた。

私は前の職業に居た頃雜誌の經營困難などは夢にも知らなかつたのに、この體驗から經營者には多く少くとり／＼の困難がある事を知つて、僅か一頁半頁の讀物でもそれが作り出される困難を十分知り得た事を幸福に思ふ。（利益主義の婦人雜誌を外にし



（十九頁よりつづく）

が故を以て難らうとしてはゐない』もし無産政黨に『己成政黨よりもより深い交渉を』もつことがあるとしてもそれは、『無産政黨が何れも婦人參政權をその綱領に揭げてゐるからにすぎない』と云はれるのである。

×

勿論婦選同盟には婦選同盟の立場があるであらう。然し私たちは何でも彼でも婦人の參政權さへえられればそれでいゝといふのであつていゝでせうか。場合に依つては無産者として、被支配者としての私たち婦人とは全でその利害を異にする處の今の支配階級卽ち既成政黨の手に依つてさへ、婦人の參政權が認められるやうな事がないでもないといふことを私達は考へられるのでありますが、そんな場合殊に現在のやうに婦人の大衆が未た非常に無自覺であるとき、さうして與へられた婦人の權利が

て）

　こんな困難な有様にありながら、尚ほ我國婦人全般の進歩、發展、幸福を願ひ、如何にもして今日の婦人の地位を向上助長せしめようとの強い主義主張のもとに、熱心な御活動はほんとに感謝に價する。願くば愛讀者諸氏、この苦闘の幾分をも察せられてこの道の爲め共に協力貢献されんことを望んで止まない。

　何をか協力貢献されんことを望むか！それは本誌を一冊よりは二冊、二冊よりは三冊と愛讀を續けて下さる上に、讀者を一人でも余計に擴めて行つて下さることである。もとより本誌愛讀者の大部分は、勤勞階級のお方、本誌一冊の誌代も、もとより勤勞から生じた血と汗との尊い勞金であるけれども、他の何かつまらない所に使用されるのを節約しても、本誌一冊の誌代をお引受け下さること、それは非常に尊い意味を持ち、お金の絶對價値を發揮し、直接には自己自らを教育され、間接には、本誌の主張たる我國婦人一般の各種運動の伸展が期せず出來る。個人の幸福は一般の幸福となる。この意味に於てくれ〳〵も、愛讀者諸氏の御諒察と御同情と理解とを望みながら筆を擱く。



政界の廓清に役立つことの代りに既成政黨にうま〳〵と利用されることに依つて、今の政界が持つところのその醜惡、その積弊を結果に於て更に二倍し三倍することに用立てられるばかりであらう事を恐れるべきではないでせうか。

×

　むしろ私たちは退いて、權利の獲得がたとへ一兩年さきに伸びるとしても、この封建的な支配權の下に虐げられてゐる、そして、無産者としては資本の支配下に極度に搾取されてゐる婦人の大衆が、政治的にも早く目ざめてくれるやうに、その啓蒙運動に力を集注して將來の有力な婦人の政治的活動の基礎をきづかればなりません。

## 編輯室にて

▲春が來た。春は嬉しい。今年もまた、あの大地のぬくもりをぢかに感じ乍ら青々とした草の上を思ふ存分に歩きまわらう。

▲私の子供たちも春が好きだ。春の野遊びをどんなに喜んで、私にからみ附いて戯れて飛んではねて、走りまわることでせう。

今月は個人雜誌みたいなものの幾頁かゞつゞいてしまつた。殊更にさうする積りでゐたのでもなかつたが、さりとて、原稿が足りなくてかうなつたのでも勿論ない。いや、原稿を折角お願ひして、忙しい中を矢鱈にサイソクをして頂いて來た先輩のもので次號まはしにしたものだけでも四つある。全體としてのつりあひやう、編輯上の都合やらでわざと使はなかつたのですから事情を御諒承下さい。

▲前號をうけて「政治の經濟的基礎」を完結して下さつた辰巳經世氏は、新進の經濟學者として有名なお方、關西の某大學の教授です。水谷長三郎氏は京都の少壯辯護士ですが、社會運動のためにいつも西し、東して盡力してゐられます。開地敏子氏は非常に地味な、それでゐて灼くやうな熱を常にたゝえてゐる人です。職業婦人運動の先達として、もつと近い將來にうんと働いて下さるに違いない人です。

竹中繁子さんのお土産話に依ると、日本の婦人方はどうして支那問題に冷淡であるのか、とは、新しい支那婦人たちの疑問であつて、彼女らは心からそれを殘念がつてゐるとの事です。新支那の動き、新支那の擡頭に注意して下さい。私たちとして、決して對岸の問題ではありませぬ。

▲近頃感想やら手紙やらで非常にいゝものを大分貰ひます。みんな誌上に發表したい樣なもの許りですが、おひ〳〵發表します。あゝして若い女の人達が眞劍に考へる樣になつて來たのだと思ふ事は私を涙ぐませます。どうぞ、もつと見つめて行つて、あなたの道を切拓いて進んで下さい。多かれ少なかれ、今の樣な過渡期に生きる私達女の悩みは殆ど宿命的です希くは僞らぬ自己の姿を見失ひますまい！　――むめお――

---

◇誌代はすべて前納にして下さい

### 前納誌代

| | |
|---|---|
| 壹部 | 貳拾五錢（郵税五厘） |
| 半年分 | 壹圓四拾錢 |
| 壹年分 | 貳圓八拾錢 |

### 送金法

送金は振替が一番便利です。
誌代の受取證は別に出しません。
雜誌發送を以てこれに代へます。

昭和二年三月廿五日納本
昭和二年四月五日發行

東京市外中野町囲三二四四
發行編輯兼印刷者　奥むめお
東京市小石川區西古川町二五
印刷所　中外印刷株式會社
東京市芝區愛宕下町二ノ三
發行所　職業婦人社
振替東京六四一六〇番

大正十三年十一月二十二日 第三種郵便物認可
昭和二年三月廿八日 印刷納本
昭和二年四月五日發行（毎月一回一日發行）

# 婦人運動

第五巻
第四號
（定價二十五錢）

